

●ハイドロテクトについて

ハイドロテクトの機能、性能を最大限発揮するために、下記注意事項を確認実施ください。



ハイドロテクトタイルの注意事項

- ・セルフクリーニング効果は、雨水の洗浄作用を利用するものです。雨水のかからない箇所では、効果を十分に発揮できません。また、鉄錆び汚れやセメント成分の白華・虹彩汚れは、ハイドロテクトタイルでは分解できない成分です。
- ・ハイドロテクトタイルと取り合う伸縮調整目地には、テレレリックポリアクリレート系シーリング材を使用すると汚れ防止に効果があります。詳細は、シーリングメーカーにご確認ください。
- ・ハイドロテクトタイルはセルフクリーニング効果がありますが、目地材には無いため、目地部の汚れが目立つ場合があります。汚れが目立ちにくい目地材（灰色・濃灰色）をご選定ください。
- ・ハイドロテクトタイル（外装用）の耐久性は、一般磁器質タイルと同等です。JIS A 5209 規格の耐薬品性・耐凍害性・耐摩耗性などの試験結果は、「変化なし」との評価が得られています。

施工後の洗浄についての注意事項

- ・セルフクリーニング効果を初期から発揮させるため、ユニット糊が乾燥する前に、水洗いまたはアルカリ洗剤での洗浄を実施ください。タイル表面にユニット糊が残ったまま目地詰めを行うと除去が困難になります。
- ・タイル表面に付着した目地材や張付モルタル（カルシウム・シリカ成分）などは、ハイドロテクトでは分解できません。目地詰め後は速やかに希塩酸（工業用塩酸 30 倍）で洗浄し、酸や汚染物が残留しないよう十分に散水してください。
- ・洗浄は、ナイロンブラシやスポンジなど軟らかいものを使用ください。金属タワシ、カッター、革スキなどの硬質材は、ハイドロテクト機能層を削る場合がありますので、使用は避けてください。

タイル先付けプレキャストコンクリート（PC）工法の注意事項

- ・敷き並べをタイルユニット法で実施する際は、タイルユニット台紙にパイオラン粘着フィルムを使用してください。凹凸の大きい面状、テクスチャーの粗い面状タイルを使用する場合は、粘着力の高いフィルムを使用してください。また、タイル表面にコンクリート硬化遅延材を塗布することで、脱型後の省力清掃に効果があります。
- ・ラスタータイル同様、高温・高圧下でアルカリ成分にさらされると、光触媒層や釉薬層が侵される恐れがあります。オートクレープ養生は避け、養生最高温度を 60℃以下としてください。
- ・タイル面の清掃は、ナイロンブラシやスポンジなど軟らかいものを使用ください。金属タワシ、カッター、革スキなどの硬質材は、ハイドロテクト機能層を削る場合がありますので、使用は避けてください。希塩酸（工業用塩酸 30 倍）で洗浄し、酸や汚染物が残留しないよう十分に散水してください。
- ・プレキャストコンクリート部材の保管は、立置きとしてください。平置き段積みは、雨水のたまり（アルカリ水）により、タイル表面に虹彩現象が発生する場合があります。
- ・プレキャストコンクリート取付後は、できるだけ早くシーリング工事を実施してください。ジョイント部の溜り水や鉄錆びが虹彩の原因になる場合があります。設置後は、工事汚水がかからないよう、排水パイプの設置にはご配慮ください。

●ユニットタイルについて

小型タイルを効率よく張れるように、ユニット化した製品を用意しています。正しく施工されない場合は、不具合の原因となりますので、ユニットごとの注意事項を厳守してください。

表紙張りユニット

糊が残ったまま目地詰めを行うと、目地材硬化後に通常洗浄では除去できない場合があります。また、目地を詰めない場合でも、残留糊にカビの発生や汚れの付着などで、追加洗浄を実施しなければならない場合があります。表紙張りユニットを施工する際は、次の事項にご確認ください。

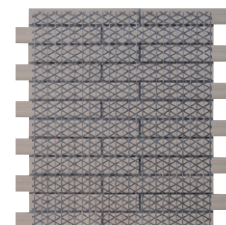
- ・紙はがし時は、多めに水を塗布してください。ユニット紙から水がしたたる程度が目安です。噴霧器使用時は水が少量になりがちなので、ご注意ください。
- ・糊に十分水が染み込んでから、3 分間放置し、紙をはがす前に再度散水し、ゆっくりと紙をはがしてください。
- ・紙はがし後、タイル表面に残った糊を洗浄してください。洗浄後は十分な散水をし、タイル表面に残留物がないようにしてください。
- ・目地詰め後は、タイル表面に目地材が残らないよう、直ちに拭き取ってください。
- ・清掃後に汚れが残る場合は、監理者の承認を得て希塩酸（工業用塩酸 30 倍）で洗浄を行って下さい。酸洗いの前後には、酸や汚染物が残留しない様、十分に水洗いをして下さい。
- ・目地色に黒・特濃灰を使用時は、予め目立たない場所で確認し、目地残りによるタイル汚れに特に注意してください。



裏ネット張りユニット

接着剤工法の普及とともに、裏ネット張りユニットの製品バリエーションが増えていきます。省力施工や多彩な陰影が実現できる反面、適切な施工がされない場合は、剥離や意匠不具合の原因となる場合があります。裏ネット張りユニットを施工する際は、次の事項にご確認ください。

- ・タイル寸法・形状に合う推奨接着剤を使用してください。適切な接着面積を確保するため、塗布コテは適切なクシ目高さを選定してください。また、たたき押えを確実にし、タイル裏面に接着剤を十分付着させてください。
- ・目地詰めをしない場合は、目地から裏ネットがあらわとなるため、接着剤色はネット近似色を選定してください。
- ・裏ネット材は、カッターナイフ等で切断ができますが、ネットほつれが目地部に残らないよう注意してください。



裏樹脂ジョイント（LJ・JJ）ユニット

接着剤工法の普及とともに、裏樹脂ジョイント（LJ・JJ）ユニットの製品バリエーションが増えていきます。省力施工や多彩な陰影が実現できる反面、適切な施工がされない場合は、剥離や意匠不具合の原因となる場合があります。裏樹脂ジョイント（LJ・JJ）ユニットを施工する際は、次の事項にご確認ください。

- ・タイル寸法・形状に合う推奨接着剤を使用してください。適切な接着面積を確保するため、塗布コテは適切なクシ目高さを選定してください。また、たたき押えを確実にし、タイル裏面に接着剤を十分付着させてください。
- ・目地詰めをしない場合は、目地から裏樹脂材が見えるため、接着剤色はグレー色を使用してください。
- ・割付により樹脂材を切断する場合は、カッターナイフで切断除去ください。

